



のびのび若っ子

フィードフォワード

校長 池田 千穂

若葉台の春は、木々の緑と咲き誇る花々に彩られ、とても美しい季節です。これからは、紫陽花が花を咲かせ、また違った彩りを見せてくれることでしょう。学校では、子どもたちも新しい学年や学級での生活に少しずつ慣れてきた頃かと思います。

さて、本校では、子どもたちの「主体的な学習」を目指して、授業改善に取り組んでいます。「主体的」とは、簡単に言えば「やらされるのではなく、自分からやる」ことです。とはいえ、これを実現するのはなかなか簡単なことではありません。好きなことなら、言われなくても自分から取り組めるものですが、「宿題やったの!」と言わなければ取りかかれない、という場面もよくあることです。



箱根駅伝で近年活躍している青山学院大学駅伝部では、原監督が選手の主体性を生かす指導を行い、チームを大きく飛躍させました。あるトークセッションの中で、次のような話が紹介されていました。(※)

—以前は、目標に対する話し合いの場で、コーチや先輩が「ダメ出し」をすることが多かった。しかし近年は、「フィードフォワード」の考え方が広がっている。

「フィードフォワード」とは、これまでの「できた・できなかった」という振り返り(フィードバック)だけで終わるのではなく、「次はどうするか」「どうすればもっとよくなるか」と、未来に目を向ける考え方です。私たちの授業改善においても、この「フィードフォワード」の視点が大切であると感じています。主体的な学びのためには、「次はどうするか」と前向きに話し合い、前向きに振り返ることが重要です。

「もっとよくするにはどうしたらいいだろう」

「こうしたいから、次はこうしてみよう」

そうした思いが生まれたとき、そこに本当の意味での「主体的な学び」が育っていくのだと思います。本校の子どもたちは、「共感性が高い」という強みをもっています。学力・学習状況調査の結果にもその一面が表れており、思いやりの心がしっかりと育っています。わかば学園と進めているインクルーシブ教育においても、優しい言葉かけや温かい関わりの姿を多く見ることができそうです。

だからこそ、このよさを土台に、自らの学びをより「主体的な学び」へと高めていきたいと考えています。私たち教職員も、前向きな言葉かけと「フィードフォワード」の視点を大切にしながら、子どもたちの成長を支えてまいります。

※<https://www.sportsanalyticslab.com/>

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』 『意欲的な学びの芽を育みます』